

東研サーモテック

和歌山に熱処理工場

増産・人手不足へ対策

東研サーモテック(大阪市東住吉区、川崎隆司社長、06・6714・2425)は、

和歌山県橋本市に自動車部品向け熱処理加工の新工場を4月に稼働する。自動変速機(AT)部品を増産する一方、既存工場からの生産移管も計画する。車業界は中国の景気後退の影響で数年先の需要が見通しにくい。生産能力を増強しつつ、既存工場も効率化し人手不足に対応する「二段構え」戦略で、変化に強い生産体制をつくる。

東研サーモテックは、

熱処理の専門メーカー。順次、生産ラインを1。同社として25年ぶりに工場約9割を埋め、約50億円となる見通し。新工場の売上高は19年4-12月期に9億超、量産品に対応す



に20億円超を計画する可能性もある。そのため東研サーモは、設

一方、足元では2年先の降の需要が読みづらく、実際の受注は工場建設前の計画より減

移す計画を並行して進める。既存工場は生産ラインを減らし空いたスペースにロボットや自動搬送機を導入して効率化を進め、人手不足に対応できる工場

につくり変える。

同社は2月末に約14億円を投じ、三重県亀山市に6万1580平方メートルの新工場用地も取得した。和歌山で稼働する新工場二つ分の広さで、車市場の景況が好転した時に生産能力を増やすのが狙い。同地での工場稼働は22年以降を予定する。

▲来月に稼働する橋本工場(和歌山県橋本市)